

## 普及啓発方法

### なぜ普及されないのか？

- ・知らない人が多い(医療・介護従事者も)
- ・使う場面がわからない
- ・説明の仕方が難しい
- ・これを見てもどこにつなげれば良いのかわからない
- ・情報が多すぎる
- ・認知症と気付いていない家族もいる
- ・本人は困っていない。困っているのは近所。  
⇒どこに相談していいかわからない。
- ・病院でも外来だと関わりがあるが、入院中だとそうでもない
- ・認知症ではないか？の判断  
⇒かかりつけ医に相談⇒相談が出来る医療機関一覧があれば  
⇒早期「不必要」というより、最初からかかりつけ医に相談しても良い
- ・生活をどうしていけばよいのか？  
⇒包括、ケアマネ等に相談を明確に

### ○放送・動画

- ・地域で配布だけでは読んでくれない⇒行政番組の活用
- ・新見放送でドラマ化⇒まず先生が出演
- ・コンビニに設置(イートインコーナーにアイパッドで説明を流す)
- ・市役所、公民館で説明を流す
- ・にのみ町ナビアプリを利用
- ・インターネットの活用

### ○キャンペーン

- ・キャンペーン認知症週間  
⇒にのみグッズを抱き合わせに  
⇒世界アルツハイマーデーと合わせる？  
⇒繰り返し、しつこく、何度も

### ○掲示

- ・パンフレットを開いて貼っておく
- ・ポスターの作成

### ○配布

- ・チェックシートを何度も配布
  - ・バスら・くるとやタクシーに貼る。駅・スーパー、コンビニなどにも
  - ・スーパーなど人目のつくところへ、持ち帰れるように
  - ・小中学校に配布⇒親が見る  
⇒数打つ作戦
  - ・市報と合わせて全戸配布
  - ・暮らしの安全ガイドに入れてもらう
  - ・健診待ち時間にチェックシート(半ば強制に)
  - ・常に持ち歩いて、関係者に説明する
- ### ○勉強会
- ・小学校で認知症をテーマに勉強会、出前授業(認知症の徘徊や声かけについて)
  - ・サロン、カフェ等で知識をふかめる
  - ・医療・介護従事者が仕組みを理解する
  - ・ご近所相談コーナー・窓口を作る

### 修正したほうが良いところ

#### 認知症ケアパス見取り図(案)について

- ・シンプルにしては？
- ・字が小さくて読みづらい
- ・表紙に大きく電話番号表す
- ・認知症と目につく表記をする
- ・イラスト・絵でやわらかく伝える
- ・ケアパスより見やすいが、説明が欲しい
- ・住まいの項目を介護の項目と一緒に
- ・一言相談は〇〇〇までと記載する
- ・重度化すれば誰かが関わっている

- ・介護度によって使用できるサービスを明確に
- ・まずは包括に相談を!!前面にもってくる
- ・包括の連絡先を表紙に、名刺サイズに
- ・おかしいなあ⇒早期対応の相談窓口を明確にする  
⇒まずは入り口を分かりやすく。何をきっかけに相談へいくか分かりやすく
- ・訪問介護はヘルパー、通所介護はデイサービスなど、なじみのある言葉を使ったらいいのでは？
- ・進行(軽度、中度、重度)度合いわからない
- ・包括とかかりつけ医、相談先2本柱

#### 認知症ケアパスについて

- ・整備中の赤文字は利用できると勘違いしてしまう
- ・白いところは適応外で、黄色が適応だと分かり辛い
- ・現在のケアパス、サービス部分がわかりにくい  
⇒絵や図等、見て分かりやすいものに